

長い目で人づくり 私立こそ

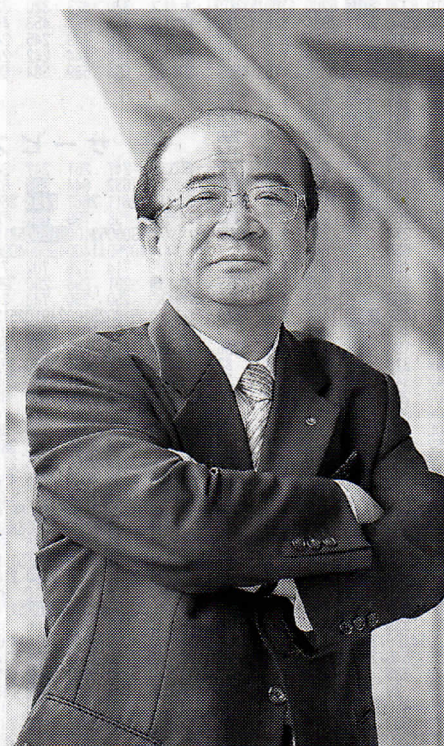
聖光学院は、横浜市中区にある1958年創立の中高一貫の私立男子校です。私も卒業生で、母校の教師を32年務めています。2004年4月に校長になり、二つの大きな目標を掲げました。

一つは、進学指導で現役・浪人合わせて40人を毎年、安定的に東大に合格させること。教職員と生徒が一体となって学習に取り組んだ結果として、05年から6年連続で東大合格40人以上を達成し、今年は現役53人、浪人12人の計65人でした。神奈川県内の学校ではこの6年で3回、東大合格者数でトップになりました。

もう一つは、カトリック校として全人教育の観点から、魅力的なプログラムを導入に力を入れました。教科や学年の枠を超えた体験型の講座（聖光塾）がその代表例です。里山の自然観察やおもしろ理科実験教室、英語劇、写真芸術入門といった30以上の講座を設け、幅広い人間形

子どもと受験⑦

2010 7/23 A



＝福岡亜純撮影

「東大に毎年40人合格」と親に約束する
横浜の聖光学院中学校長

工藤 誠一さん（54）

成をめざしています。

成績の良い子だけを集めて、いい大学に入れるだけでは、いざれ支持を得られなくなるでしょう。生徒が成人し、社会人として活躍していく姿を見守る。変わることを信じて夢を託す。教員や学校にとっては、と

とても大事なことです。私立の良さはそのようなところにあるのではないのでしょうか。

最近、公立の中高一貫校が増えていますが、学費を比べると、私立は公立の5倍はする。親の負担という点では太刀打ちできませんが、公教育

に長期的な人づくりの視点がどれだけあるのか、という点、分かります。いんですね。

公立は転勤があるため、教師もどんどん代わり、勤務校の教育に落ち着いて取り組めません。転勤がない私立では、教師がじっくりと教科研究に携われます。生徒が塾に行かなくても、学校の受験指導だけで十分な態勢がとれています。

有名私立大は、付属中や付属小を次々につくり、推薦で大学に進める点をアピールしています。大学の付属でない本校は、成績が何番であっても高い目標を持ち続けるよう指導し、多くの保護者の支持を得ていると思います。学年の定員は225人ですが、実績では200番台でも早稲田や慶応に合格しています。

中学入試を突破し、せっかく入学しても、急激な環境の変化などもあって、不登校や深刻な成績不振におちいる生徒も中にはいます。しかし

決して転校は勧めず、基本的には留年も回避するよう努めます。どうしても子どもが救われるかを家庭と相談しながら方策を立て、長い目で成長を見守るようにしています。

景気低迷の影響で、私立中学受験者が減り、塾に通う小学生も減っている、と言われます。心配ではありませんが、私立の良さを理解し、支持してくれるご家庭や、何代にもわたる根強いファンが絶えることはないことを確信しています。

私立は学校によって特色もさまざま。志望校を決める際には、学校を直接訪ねて雰囲気や違いをよく知ってほしいと思います。その学校を家族で好きになれたら、勉強への意欲も一段と高まるでしょう。

ただ、親御さんには注文があります。子どもの受験を通して自己実現しようとする（家庭を見受けませんが、子どもが親の期待にこたえられなくなると、芳しくない結果につながります。自立した親として子どもに接することが大切だと思っています。）
（聞き手・鈴木暁彦）
◇次回は29日に掲載します。